

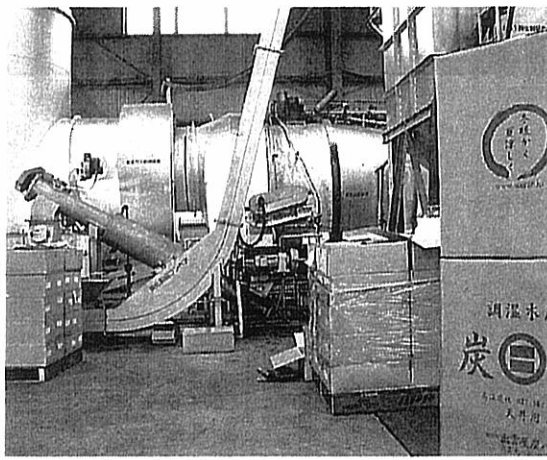
島根県内の建設大手、出雲土建(出雲市)が公共事業への依存度引き下げに力を入れている。消費税増税前に予想される住宅分野での駆け込み需要をにらみ、炭を建材として活用した賃貸マンションの建設などを収益の新しい柱に育てる戦略だ。中長期では「炭の家」ブランドとして県外展開も狙っており、民需を軸とした成長戦略を描く。

出雲土建は10年近く前まで売上高全体に占める公共工事の割合が8割を占めていた。だが、公共工事の減少から1990年代後半から民需への転換を打ち出し、現在は公共工事依存度は55%程度にまで低下している。同社が民間の住宅市場

出雲土建(出雲市)

強さの秘密

企業・事業所
ファイル



建築廃材の木材を買い入れて炭を製造、賃貸住宅などに活用する(子会社の出雲カーボン)

▽本社 島根県出雲市知井宮町138-13
▽社長 石飛裕司氏

▽売上高 26億円(2012年6月期)
▽従業員数 62人

「炭の建材」で民需開拓

を開拓する武器としたの材の木材を買い入れて炭が「炭の家」だ。建築廃材を製造し、建築材料とし

社は今後10年以内にシェア10%を目指す。

土地取引仲介事業で20年以上の実績がある。大手

て賃貸住宅などに活用する事業で、2004年から本格的に開始した。炭の建材は調湿や空気清浄効果があり、アトピーやぜんそくの改善も期待できるとして注目を集め、「炭の家」のブランドの賃貸マンションは1月下旬までに累計32棟、工事金額にして48億7000万円分を建設。現在、出雲市内の賃貸マンション市場全体のうち、約5%のシェアを占める。同社は公共事業と並行して地元建設企業ならではの地縁を生かした

賃貸マンション、32棟に

流通などのロードサイド店舗に出店に際しての土地あっせんなども収益機会につなげている。こうした土地取引仲介のノウハウが消費税増税の駆け込み需要に機敏に対応した宅地分譲に生きているほか、近年増えてくる自治体が補助金を出す業務委託方式の土地区画整理事業の受託にもつながっている。

出雲土建の売上高は06年6月期の32億円をピークに12年6月期は26億円に減ったが、近年は賃貸マンション事業などの民間部門を支えに下げ止まっている。先行きも全体の売上高は現水準を維持を図る一方、民間部門の利益率改善で収益力を高めたい。

支局
岡山 0882-2344-1115
広島 0884-2225-2071
山形 0886-2225-2071
山梨 0885-2221-2465
江取 0885-2221-2465
口 0883-9222-1167

中
田

(松江支局長 毛塚正夫)